

立命館經濟學

第四卷 第三号

昭和三十年八月

内 容

論 説

わが国鉱業〔石炭〕における親方制度の解体過程……大 山 敷 太 郎 1
——「わが国鉱業労働における封建制と親方制度」補論その三

唯物論についての覚え書（その二）……………阿 部 矢 二 67

史 料

新中国の人民券の本質と機能について……………武 藤 守 一 86

大量通信交通と新聞の匿名主義（下）……………淡 川 康 一 120

T・B・ヴェブレン方法論の論難……………浜 崎 正 規 141

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学

第四卷・第一号

論説

経営学における労務の考察

祭原光太郎

ダウ理論にたいする二つの批判

住ノ江佐一郎

わが国鉱業における親方制度の解体過程

——「わが国鉱業労働における封建制と親方制度」

補論その二——

大山敷太郎

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(下の上)

梯明秀

資料

工業史の一断片(下)

淡川康一

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第四卷・第二号

論説

J・S・ミルに於ける財政思想(一)

箕浦格良

証券価値論への前提

住ノ江佐一郎

高島炭坑に見る明治初期の親方制度の実態

——「我が国鉱業労働における封建性と

親方制度」補論その二——

大山敷太郎

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(下の中)

梯明秀

史料

大量通信交通と新聞の匿名主義(上)

淡川康一

発行所 立命館大学人文科学研究所